

(注) 本報は、主に現地紙における報道を当館限りで日本語でまとめたものです。記事の中の客観事実は日本政府や現地政府の公式見解と異なる場合がありますが、当館では文責は負いかねますのでご了承ください。

ベナン月報(2022年4月)

【内政】

- 19日、民主党(Les Démocrates)は2023年1月の国民議会議員選挙に参加することを表明した。(21日、L' Evénement Précis 紙)
- 26日、タロン大統領は労働組合連合会との協議を行い、最低賃金の30%引き上げに合意した。(27日、L' économiste 紙)
- 28日、ワダニ経済・財務大臣、アスマン産業・商業大臣及びクナム国璽尚書・法務は国民議会議員に対し、生活必需品の価格高騰に関する説明を行った。(29日、Le Matinal 紙)

【外政】

- 8日、駐ベナン大使として着任したニジュール、米、タンザニアおよびアラブ首長国連邦の4大使が信任状写しをアベノンシ外務・協力大臣に提出した。(11日、Le Matinal 紙)

【治安】

- 11日、ベナン北部のパンジャリ国立公園において、ベナン国軍の車列を狙ったテロ攻撃が発生した。ベナン国軍兵士5名が死亡、1名が重傷を負った。(13日、L' Evénement Précis 紙)
- 26日、テロ武装勢力がベナン北部アリボリ県カリママ市モンセイにある警察署を襲撃し、勤務していた警察官1名が死亡、同署は燃やされた。(27日、La Nation 紙)

【経済】

- 8日、信用状態に関する格付けを行うフィッチ・レーティングス(Fitch Ratings)は3年連続でベナンをB+に格付けした。(13日、L' économiste 紙)
- 15日、国家統計・人口統計局(Instad)は、ベナンは、2020年は経済成長率が3.8%であったのに対し、2021年には7.2%に上昇した旨発表した。(19日、La Nation 紙)

※下記内容は、La Nation 紙、Le Matinal 紙、L' Evénement Précis 紙、L' Économiste 紙および Le Matin Libre 紙の記事を元に記載したものです。

【内政】

- 4日、ソグロ元大統領は、拘禁中の野党主導者であるレキヤ・マドゥグ氏及びジョエル・アイボ氏宛てに励ましの書簡を送った。(6日、L' Evénement Précis 紙)
- 6日、大統領府に直轄する腐敗・買収に関する告発及び苦情受付室のメンバーが確定し、クパキ大統領府国務大臣兼官房長が室長となった。当室は、1月の閣議決定で腐敗撲滅を目的に設置されたもの。(6日、Le Matinal 紙)
- 13日、2021年大統領選挙の候補者であったイレネ・アゴサ「信頼再興」(Restaurer La Confiance) 党首(野党)及び野党全体の党首であるポール・ウンペ氏は、2023年1月の国民

議会議員選挙に向けた野党の活力向上及び同選挙への参加について協議を行った。(14日、La Nation 紙)

- ・ 14日、憲法に従い、ブラボヌ国民議会議長は2022年度第1回通常国会を召集し、開会式を行った。(15日、Le Matinal 紙)
- ・ 19日、民主党(Les Démocrates)は2023年1月の国民議会議員選挙に参加することを表明した。(21日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 21日、ブラボヌ国民議会議長は2021年10月1日から2022年3月31日までの国民議会活動報告書を同議会に提出し、承認された。(22日、La Nation 紙)
- ・ 22日、同日に終了予定であった電子選挙人名簿(Lei)の登録・修正期間が5月26日まで延長された。当該登録は3月17日に開始し、当初締め切りは4月16日だったものがすでに一度延長されていた。(25日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 26日、タロン大統領は労働組合連合会との協議を行い、最低賃金の30%引き上げに合意した。(27日、L'économiste 紙)
- ・ 28日、ワダニ経済・財務大臣、アスマン産業・商業大臣及びクナム国璽尚書・法務は国民議会議員に対し、生活必需品の価格高騰に関する説明を行った。(29日、Le Matinal 紙)

【外政】

- ・ 4日、ブラボヌ国民議会議長は、オーストリア議員代表団と面会した。(6日、Le Matinal 紙)
- ・ 8日、駐ベナン大使として着任したニジェール、米、タンザニアおよびアラブ首長国連邦の4大使が信任状写しをアベノンシ外務・協力大臣に提出した。(11日、Le Matinal 紙)
- ・ 20日、ベナン政府は、ウクライナ・ロシア情勢により生活環境が悪化したベナン人ロシア留学生への財政面での支援を閣議決定した。(22日、Le Matinal 紙)
- ・ 26日、コネ・コートジボワール副大統領はタロン大統領と面会し、副大統領就任に対する祝福を受けた。(28日、L'Événement Précis 紙)

【治安】

- ・ 11日、ベナン北部のパンジャリ国立公園において、ベナン国軍の車列を狙ったテロ攻撃が発生した。ベナン国軍兵士5名が死亡、1名が重傷を負った。(13日、L'Événement Précis 紙)
- ・ 13日、治安に関する閣僚会合「アクラ・イニシアティブ」の第8回会合がコトヌ市で開催された。議長はベナンのセイドゥ内務・治安大臣であり、ブルキナファソ・コートジボワール・ガーナ・ニジェール及びトーゴの代表が参加した。(14日、Le Matinal 紙)
- ・ 26日、テロ武装勢力がベナン北部アリポリ県カリママ市モンセイにある警察署を襲撃し、勤務していた警察官1名が死亡、同署は燃やされた。(27日、La Nation 紙)
- ・ 28日、国際移住機関(IOM)はベナン・ナイジェリア国境付近の安全保障のためチカドゥ警察署(アリポリ県)へパトロール用車両等の引渡式を行った。当該プロジェクトはドイツの支援のもと実施されたもの。(29日、Le Matinal 紙)

【保健】

- ・ 16日、ウンパティン保健大臣及びトニフォデ社会問題・マイクロファイナンス大臣は、ベナン政府が推進する健康保険制度適用地域の拡大を記念した式典に参加した。(19日、L' économiste 紙)
- ・ 22日、ニヨンジマ国連常駐代表は、世界保健デーの取り組みとしてモノ県保健局へのコレラ対策医療機材の引渡式を行った。(26日、Le Matinal 紙)
- ・ 29日、世界銀行はベナンの基礎医療制度の改善のため、ベナン政府に対し、IDA(国際開発協会)を通じて、1. 87憶ドル相当の融資の実施を決定した。(29日、L' économiste 紙)

【経済】

- ・ 6日、ウス・エネルギー大臣は、ベナン電力週間の開始における記者会見に際し、政府行動計画第二フェーズでは電力分野の事業は11%を占めており、それにより2026年には電力普及率が45%に上昇すると述べた。(8日、L' Evénement Précis 紙)
- ・ 8日、信用状態に関する格付けを行うフィッチ・レーティングス(Fitch Ratings)は3年連続でベナンをB+に格付けした。(13日、L' économiste 紙)
- ・ 15日、国家統計・人口統計局(Instad)は、ベナンは、2020年は経済成長率が3. 8%であったのに対し、2021年には7. 2%に上昇した旨発表した。(19日、La Nation 紙)
- ・ 20日、原料価格の高騰に関し、ベナン政府は肥料などの農業関連資材における助成金の支出や農業関連税の一部免除を閣議決定した。(21日、L' économiste 紙)
- ・ 23日、国際通貨基金(IMF)は、ベナンに対し、7億ドルにのぼる拡大信用ファシリティー(ECF)と拡大信用供与措置(EFF)にかかる融資契約(42か月)を締結することを決定した。当該融資契約は、安全保障や政府行動計画における経済改革を支援する。(25日、L' économiste 紙)
- ・ 25日、ベナン政府は、スタンダード・アンド・プアーズ(Standard & Poor's)はB+/安定予想との格付けを行った旨発表した。(27日、Le Matinal 紙)

【文化・その他】

- ・ 3日、第64回グラミー賞でベナン出身のシンガー・ソングライター、アンジェリーク・キジョーが最新アルバム『Mother Nature』を以て5度目の受賞をした。(5日、Matin Libre 紙)
- ・ 11日、コトヌ自治港の外壁一面に描画をする第8回エフェグラフ(Effet graff)祭が開会した。
1. 3キロに渡る同壁の装飾が実現できれば、最長の描画壁としてギネス登録される可能性がある。(12日、La Nation 紙)
- ・ 23日、第一回国際アフリカゲーム杯がコトヌ市で行われ、ベナン人のラフィア・モンウ氏が優勝した。(25日、L' économiste 紙)